

Economic Indicators

発表日:2024年2月22日(木)

貿易統計(2024年1月)

～貿易収支(季節調整値)が黒字転化も一時的～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

	貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量					
	原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	中国	前年比	アメリカ	EU	中国	
			前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比		
23年	1月	▲ 35,064	▲ 16,319	3.5	17.2	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.5	▲ 26.2	▲ 2.6	▲ 1.0	▲ 8.3	▲ 1.2
	2月	▲ 9,199	▲ 12,301	6.5	8.2	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 22.5	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 11.6
	3月	▲ 7,588	▲ 11,834	4.3	7.1	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 19.7	▲ 3.5	0.8	▲ 5.7	1.8
	4月	▲ 4,364	▲ 10,242	2.6	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.4	▲ 1.6	▲ 5.2	▲ 3.9	10.1
	5月	▲ 13,821	▲ 8,137	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.6	▲ 6.8	▲ 6.2	▲ 10.5
	6月	392	▲ 5,865	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 14.1	▲ 7.6	▲ 14.0	5.0	▲ 13.9
	7月	▲ 637	▲ 5,916	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 15.8	▲ 6.2	▲ 12.2	15.6	▲ 16.1
	8月	▲ 9,432	▲ 5,907	▲ 0.8	▲ 17.6	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 15.1	▲ 9.0	▲ 9.6	5.1	▲ 13.8
	9月	654	▲ 4,578	4.3	▲ 16.5	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 12.5	▲ 3.9	▲ 12.9	▲ 6.2	▲ 1.7
	10月	▲ 6,671	▲ 5,546	1.6	▲ 12.4	▲ 3.4	8.8	0.4	▲ 9.4	▲ 3.2	▲ 0.0	0.8	▲ 2.4
	11月	▲ 7,852	▲ 3,754	▲ 0.2	▲ 11.8	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.6	0.4	▲ 3.4
	12月	689	▲ 4,401	9.7	▲ 6.9	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.1	▲ 4.2	▲ 13.9	▲ 0.6
24年	1月	▲ 17,583	2,353	11.9	▲ 9.6	2.3	7.1	▲ 0.3	20.4	▲ 8.4	▲ 3.7	▲ 22.1	▲ 9.2

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○輸入の減少で貿易収支(季節調整値)が黒字転化

財務省より発表された1月の貿易統計では、輸出金額が前年比+11.9%(事前予想:+9.5%)、輸入金額が同▲9.6%(事前予想:▲8.9%)、貿易収支は▲17,583億円の赤字(事前予想:▲18,881億円の赤字)となった。季節調整値でみると、輸出金額が前月比▲3.6%(12月:同+5.8%)、輸入金額が同▲10.5%(12月:同+6.2%)とそれぞれ減少したことで、貿易収支は2,353億円の黒字となり、21年5月以来の黒字転化となった。もっとも、今月の黒字化は輸入が大きく減少したことが主因である。この輸入急減については年明けの能登半島地震が影響した可能性もあり、持続的なものとは思われない。この先、輸出も伸び悩む状況が続く中、このまま貿易黒字が定着するとは考えにくいだろう。貿易収支の基調としては、輸入価格の下落によって輸入金額の減少傾向が続いていることで、貿易赤字の緩やかな縮小傾向との評価になるだろう。

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)についても、前月比▲4.5%(12月:同+7.2%)となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。1月については、中華圏における春節の時期が昨年と異なったことで(昨年の春節は1月下旬、今年は2月中旬)、中国、アジア向け輸出が実勢よりも押し上げられた可能性があることに注意が必要である。来月はその反動で減少に転じる可能性があり、中国向け及びアジア向けの足元の評価は2月と均してみる必要がある。その一方、米国向けと欧州向けについては落ち込みが目立ち、実質輸出全体は減速感を強めている。

○地域別実質輸出の動向

1月の実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比▲9.0%(12月:同+14.9%)、欧州向けが同

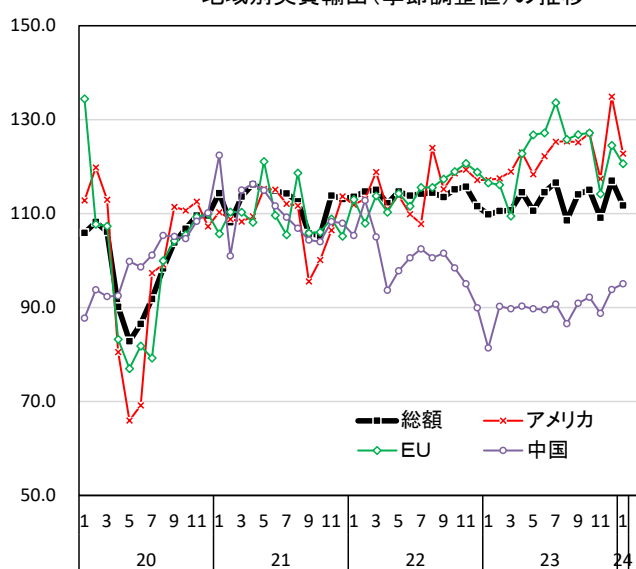


▲3.1%（12月：同+9.0%）、中国向けが同+1.3%（12月：同+5.7%）となった。

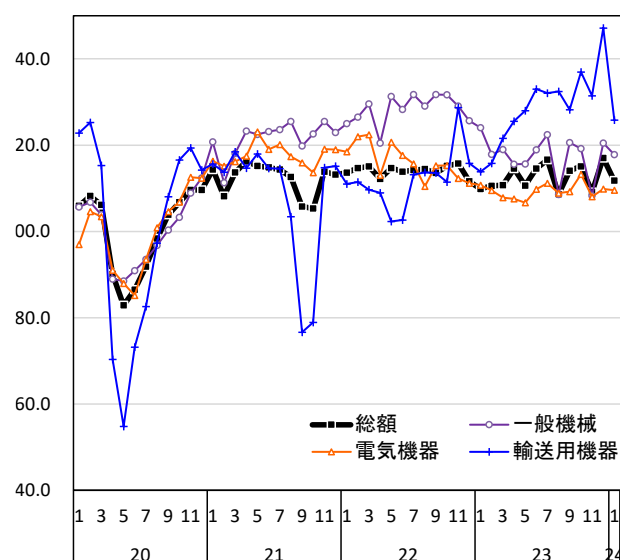
米国向け輸出は、ウエイトの大きい自動車輸出の回復が支えとなって堅調さを維持してきたものの、このところは単月での振れが大きく、今月は減少に転じた。自動車含む輸送用機械（対世界前月比：12月+11.9%、1月▲14.5%）は、年明け以降の一部自動車メーカーの工場停止による減産の影響が懸念されるが、1月は前月に大きく増加していた反動減もあるとみられ、減産の影響度合いは2月以降も確認する必要があるだろう。欧州向け輸出は、10-12月期（前期比▲5.3%）に大幅な減少に転じた上、1月も前月比減少となったことで減速感が強まっている。欧州の景気減速を反映して、一般機械や電気機械など、自動車以外の財の落ち込みが明確となっている。中国向け輸出は2か月連続の増加が続いたものの、前述の通り春節の時期が昨年と異なったことで、1月は実勢よりも押し上げられている可能性がある。1~2月は均して確認する必要があるものの、2月は1月と逆の動きとなることで減少に転じる可能性が高く、中国経済の停滞を反映して低調な推移が続いたとみられる。

先行きについて、年明け以降の自動車減産により、これまで牽引してきた自動車輸出も下押しされることが見込まれる。これにより、これまで堅調さを維持してきた米国向け輸出も減速感を強めるだろう。自動車以外の財輸出についても、世界的な製造業部門の減速によってすでに低迷していることから、実質輸出は弱い基調が続く見込みだ。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。